

欧州紀行(5) 北海を北上してベルゲンへ

2023-6-18 池田良穂

英サウサンプトンを出港した「アンセム・オブ・ザ・シーズ」は、ドーバー海峡を通過して北海に入り、ノルウェーに向けて北上しました。

クルーズ2日目のこの日は終日航海日で、ベルゲン到着は3日目の午後の予定です。このため朝から、船上はのんびりムードで、朝食時間でもレストランは混んでいませんでした。多くの人が姿を現したのは午後からで、ソラリウムもプールサイドもウィンドジャマーも満席状態となり、椅子をみつけないのが大変な状態になりました。天気はよいのですが、風は冷たく、ジャケットなしでは耐えられない気温なのですが、西洋人は半そでに短パンもしくは水着姿で日光浴に余念がありません。約4200人余りの乗客が確かに乗っているのを実感できる瞬間でした。

かなり広い北海なので、他船の反航はあまり期待していなかったのですが、午前中に2隻のクルーズ客船、キューナードの「クイーン・ビクトリア」とカーニバル・クルーズの「カーニバル・プライド」に出会いました。両船共にサウサンプトンを起点としたクルーズを実施していますので、ちょうど航路が一致していたのでしょう。かなり嬉しい出会いでした。



キューナードの「クイーン・ビクトリア」



カーニバル・クルーズの「カーニバル・プライド」



終日航海日だったため、屋過ぎから各パブリックスペースが混み始めました。写真は屋内プールとジャグジーです。最近、各プールに赤い服のライフセーバーが常時配置されるようになりました。



重量物運搬船「BBC トパーズ」です。デッキ上の丸いコイルは鋼板でしょうか。



ばら積み貨物船「スカイフォール」とも反航しました。

翌朝は4時に日の出、そしてベルゲンでの日の入りは23時10分とのことでした。北上するにつれて北欧らしい白夜に少しずつ近づいています。

一夜明けると、部屋の壁の仮想窓は一面真っ白。デッキにでてみると、霧でほとんど見えない状況で、「アンセム」は霧笛を鳴らしながら20ノットで走っていました。上を見上げると青っぽいので、

霧さえ晴れば天気はよくなりそうです。10 時前にはスピードが 14 ノットくらいに落ちました。

11 時頃には霧が晴れた頃、船はベルゲン湾に入り始めました。右に一部が霧に隠れたオイルリグが見えて、造船所がありそうです。やがて橋の下を通る頃にクルーズフェリー「ベルゲンフィヨルド」が追い抜いて行きました。15 時の当初予定より、かなり早い 12 時半には「アンセム」はバックでベルゲンの埠頭に着岸しました。隣には「ベルゲンフィヨルド」の姿がありました。

市街地に近い埠頭には、アイダクルーズの「AIDAaura」が停泊しているのが遠望できました。また、フィヨルドの中をつなぐ高速旅客船の姿も写真に収めることができました。



霧が晴れ始めた時に、ベルゲン湾の入り口付近でセミサブ型のオイルリグの姿が見えました。大学の現役時代には、このセミサブ型オイルリグの性能の研究もしましたので、懐かしい思いがしました。



日本では見かけないタイプの作業船と遭遇しました。



ベルゲンに向かうクルーズフェリー「ベルゲンフィヨルド」が右舷を追い抜いて行きました。LNG 燃料フェリーです。



フィヨルドの中の集落をつなぐ高速旅客船は大事な生活の足になっています。



ベルゲン港に停泊するアイダクルーズの「AIDAaura」です。



「アンセム・オブ・ザ・シーズ」は、「ベルゲンフィヨルド」の隣の岸壁に着岸しました。